2. 歴史

歴史的資源を、景観の骨格のひとつの要素としてとらえた場合、２つの方向から考えることができます。

１つは寺社や史跡などの資源それ自体を守ること、さらに、周囲のみどりなど景観的に優れているものを一体的にとらえて守る『古くて良いものを守っていく』という方向です。もう１つは街かどの石造物や、由緒のある場所、古い道などのもつ歴史的意味を伝えて景観づくりに活かしていく『埋もれているものを発掘し、つくっていく』という方向です。

ア. 特性

さまざまな歴史的資源がありますが、「目黒区の歴史的な景観の骨格をつくる要素」ということから考えると、以下のようなものが取り上げられます。

(ア)坂道

- 本区は台地の部分と、目黒川などの河川によって浸食された低地とに分かれ、地形に起伏があるために坂道が非常に多くあります。坂道の中には、古くは富士山をも望める場所であったり、昔から名称がつけられ親しまれていたりと、歴史的にも景観形成に寄与しています。
- 坂道は、平坦な道にはない印象深い景観をつくり出しています。

(イ)街道

- 鎌倉街道、大山道、二子道など、中世から近世にかけて、江戸から鎌倉へあるいは大山への道筋の一部として、物資流通の道、寺社参詣を楽しむ道、軍事のための道と、さまざまに利用されてきました。街道は他の点的な資源と異なり、連続性のある、軸的、線的な歴史景観としてとらえることができる要素です。

(ウ)河川・用水路と水車跡

- 河川は古代からその姿を次第に変えつつ、歴史を刻んできた資源であり、「街道」と同様、目黒の軸的、線的な歴史景観をつくる要素としてとらえることができます。

住宅地内の坂道（柿の木坂）

緑道として整備された河川（立会川緑道）

道端の庚申塔（田道庚申塔）

歴史ある寺社（八雲氷川神社）

- 目黒川と呑川の一部を除きすべて暗渠化されており、そのほとんどは緑道として整備されています。用水跡沿いには、古い時代の動力として重要であった水車の跡などの資源もあり、水系の軸的、線的な景観のなかに取り込んで、一体的に活かすことができる資源です。

（エ）庚申塔

- 庚申塔は道端にある小さな石造物ですが、区内には非常に多く存在し、一部では、何基もの塔がまとまって目を引くものもあります。これを「街道」のような軸的に展開する景観と一体的に考えていくことで、区を特徴づける景観として活用していくことが期待できます。

（オ）周辺をみどりに恵まれた寺社

- 目黒区は豊富なみどりを境内地にかかえる寺社が多くあります。これらの寺社が集中し、みどりが充分に育っている目黒不動尊や円融寺周辺などは、遠くからも確認できるみどりのまとまりであり、面的に広がる歴史的な景観資源としてとらえることが期待できます。

（カ）その他点的に存在する歴史的資源

- 点在する寺社、樹林など、区内に点的に存在する歴史的資源は、それだけでは景観の骨格をつくることは難しいといえます。歴史的資源と（ア）から（オ）の各資源を相互に関係づけてとらえることで、歴史的な意味をもつ景観の骨格の一部として活かすことができます。

（キ）「みどりの散歩道」・「めぐろ風景55」

- みどりの散歩道は、公園や歴史資源、坂や寺社等の要素を基に設定されているものが多く、区の歴史を活かす軸的な景観の１つとしてとらえることもできます。
- 「めぐろ風景55」は、区内の美しい街並みや風景、伝統的な行事などの中から、優れた風景を選定したものです。

イ. 課題

（ア）坂道を活かした景観形成

①主な街道（鎌倉街道、大山道、二子道など）と一体となった景観形成

- 現在の街道は広幅員で、街道そのものの面影がないため、由来のある坂道であるということ

を、景観形成に活かすことができません。そこで、昔の重要な街道であったことと、由来のある坂道であることがあわせて分かるような景観形成を考えていく必要があります。

②寺社と一体となった景観形成

- 坂道に、寺社の参道的な役割や、みどりの散歩道などとしての役割をもたせ、歴史的意味を掘り起こすだけでなく、良好な景観形成に寄与するようなものにしていく必要があります。

③周辺の住宅地と一体となった景観形成

- 幅員や周囲の雰囲気などから、昔の面影を感じることのできる坂が残っています。このため現在の雰囲気を壊さずに、坂道の由来や意味をよりわかりやすく知らせることによって、歴史的意味を持ち、かつ住宅地の中の道としてもふさわしい景観を形成していく必要があります。

④坂道からの眺望

- 坂を登りきった頂上には、古くは富士山などがみえる見晴らしの良い地点であったことを示すような仕掛けをする必要があります。

(イ)街道(「古い形状が残っている道」も含む)の存在の意識化

- 主な街道が通っていたと想定される場所は、現在ほとんどが広幅員の道路であり、周辺の環境にも昔の面影はほとんどありません。このため道のどこかに、かつてここが街道であったことを示すような工夫が必要です。唯一古い道の面影があるのは、道路線型が曲がって古い形状が残っているような部分ですが、そのような部分では、沿道で開発、整備が行われる際に、古道であることを人に知らせる景観整備が必要です。

(ウ)河川や用水跡を意識した景観形成

- 目黒川と呑川の一部以外の川は全て暗渠になっていますが、河川を意識した整備をすることが必要です。
- 用水の跡についても、区の歴史を思い起こさせるため、用水跡であることが分かるような景観整備が必要です。

(エ)庚申塔

- 庚申塔は、それ自体は大きな景観の骨格の要素にはなりえませんが、小さくても街かどのポイントになる資源です。街道、古い形状の残っている道、暗渠河川あるいは寺社などと一体的に取り込んで、魅力的な空間をつくるのに活用していく必要があります。

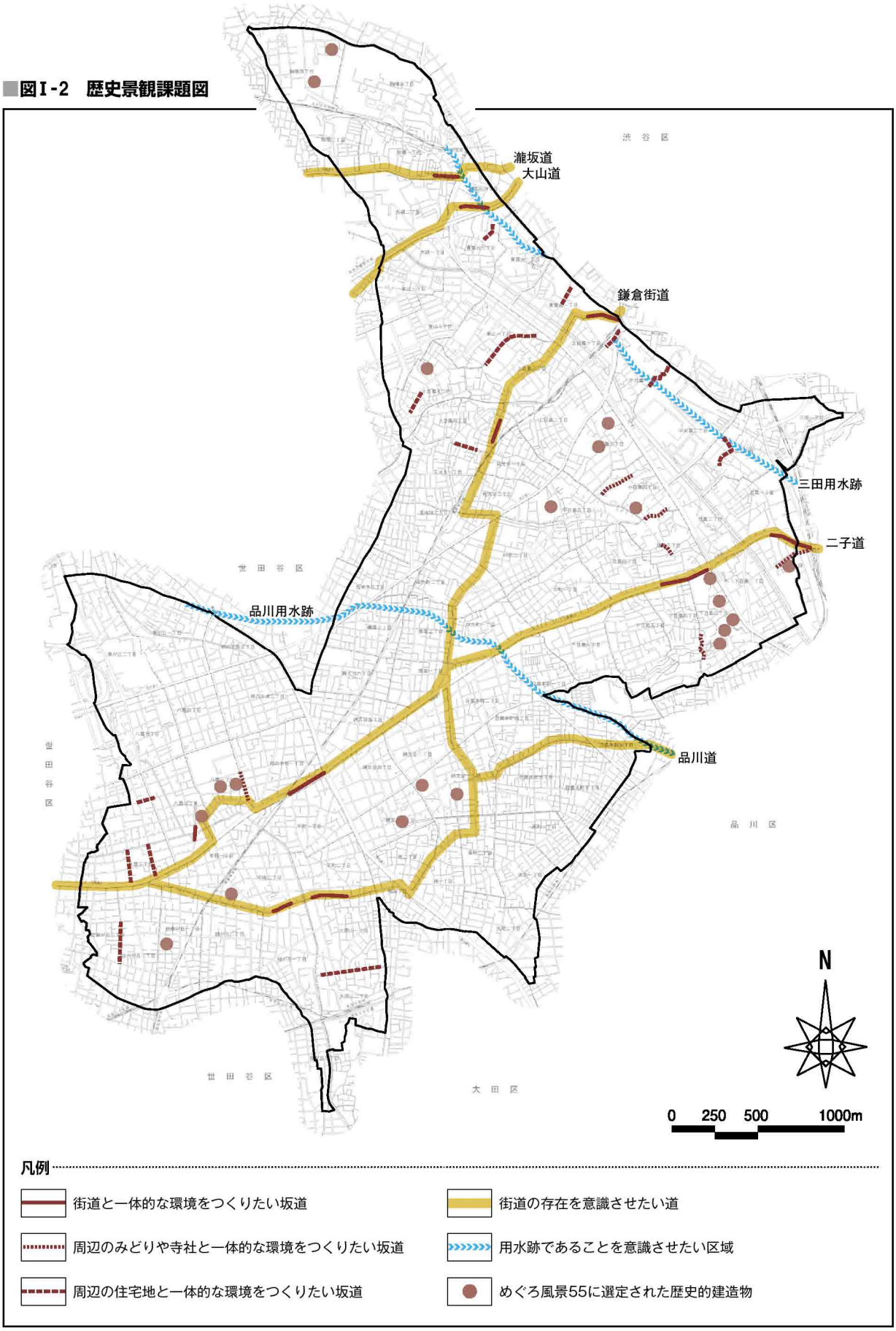
(オ)寺社と周辺のみどりの保全

- 一定の範囲に寺社等の歴史的資源が多く集まっている地域などで、良好なみどりの充実を図ることができる地域では、今あるみどりと歴史的空間のまとまりを守り、民有地のみどりを広げるように努力する必要があります。

(カ)その他点的に存在する歴史的資源

- 区内に点在する歴的史資源は、それらを保全・活用していく必要があります。

■図Ⅰ-2　歴史景観課題図


渋谷区
瀧坂道
大山道
鎌倉街道
三田用水跡
二子道
世田谷区
品川用水跡
品川道
品川区
世田谷区
世田谷区
大田区
N
0 250 500 1000m
凡例
街道と一体的な環境をつくりたい坂道
街道の存在を意識させたい道
周辺のみどりや寺社と一体的な環境をつくりたい坂道
用水跡であることを意識させたい区域
周辺の住宅地と一体的な環境をつくりたい坂道
めぐろ風景55に選定された歴史的建造物

3. 生活空間

(1) 街区

ア. 特性

目黒区の街並み景観を形成している建築物の街区を、地形と道路形状により、以下の3つに類型し、更に市街化の経緯による都市型（連担型）と郊外型（独立型）の傾向の強さを設定して、土地利用別に景観特性を類型化しました。(下表参照)

- 基盤整備地区※と台地上の格子状街区地区（田の字型*）
- 斜面地（ヌの字型*）
- 谷あい低地と古道・旧河川周辺の帯状地区（キの字型*）

＊地形と道路構成による類型を、形状が連想される文字で表現したもの。
【田の字型】：面的に広がる地形と格子状の道路形状を表現
【ヌの字型】：斜面地であることと、斜面上を尾根に向かって上がる坂道と、等高線に沿って通る平坦な道路を表現
【キの字型】：古道・旧河川などの連続的な軸と、軸に沿って建築物が連担している構成を表現

■表Ⅰ-1　目黒区の街並み景観類型

建築物の配列・構成 ＼ 土地利用	基盤整備地区と台地上の格子状街区地区（田の字型）		斜面地（ヌの字型）		谷あい低地と古道・旧河川周辺（除く幹線道路）の帯状地区（キの字型）	
	⇦ 郊外型（独立型）	都市型 ⇨（連担型）	⇦ 郊外型（独立型）	都市型 ⇨（連担型）	⇦ 郊外型（独立型）	都市型 ⇨（連担型）
	強い ←	→ 強い	強い ←	→ 強い	強い ←	→ 強い
	混在		混在		混在	
住居系	☆ 八雲 柿の木坂 ☆ 碑文谷	☆ 五本木 ☆ 三田2	☆ 青葉台	☆ 上目黒2、3 中目黒3、4 下目黒3		
商　業		☆ 自由が丘			☆ 鷹番	☆ 上目黒2
混在地		☆ 目黒本町 中央町			祐天寺	

注）それぞれの典型地区を書き出してある。

（ア）基盤整備地区と台地上の格子状街区地区の景観特性（田の字型地区）

①郊外型

『平坦地とゆるやかな斜面』

- 耕地整理や区画整理による面整備により格子状の街区に区切られた地区で、台地上の平坦地をメインに、ゆるやかな南斜面及び東斜面を取り込んで、区画の大きい敷地に戸建て住宅が秩序良く並ぶ地域が郊外型の典型地区です。

『リズム感と開放感』

- 敷地を取り囲む塀や生垣などの植栽が、道路に沿って連続的に並ぶことにより街並みにリズム感を生み出しています。また建築物が道路境界より後退することにより、街並みに開放感を与えています。

『山の手住宅地』

- 小説「陽のあたる坂道」に表現されたように、山の手の住宅地として人々がイメージする文化史的側面もある、本区を代表する景観の１つです。

②都市型

『道路と建築物の一体感』

- 郊外型に比べると街区割が小さく、建築物個々の敷地面積も小さいので個々の建築物の表情が街並み景観を大きく左右します。道路幅員が狭いことにより、道路と建築物が一体となって街並みを形成しています。

『多様な暮らしぶり』

- 建物用途も戸建ての専用住宅に限らず、アパートなどの集合住宅や商業や工業利用の建築物も混在しているため、多様な暮らしぶりが感じられる街並みとなっています。

『郊外型と都市型の混在』

- ゆとりのある敷地規模をもった住宅地が、部分的に敷地の細分化が見られる高密な市街地に変貌し、その結果、郊外型と都市型の両方の景観が混在した街並みが形成されています。

（イ）斜面地の景観特性（ヌの字型地区）

①郊外型

『眺望のきく南斜面』

- 南斜面の場合、良好な住環境が得られるため、地形を活かした住宅地が形成される場合が多くなっています。本区の場合、青葉台の斜面地は眺望のきく南斜面であったため、比較的大きな敷地が等高線に沿ってひなだん状に並んだ、街並み景観がつくられています。

『西郷山公園一帯』

- 西郷山公園一帯はその代表的街並み景観で、尾根から斜面全体を旧西郷邸の敷地とし、斜面地には庭園を配し壮大な景観をつくっていました。

②都市型

『斜面地を構成する2つの道』

- 斜面地では、低地から斜面への地形的変化に伴い、斜面を尾根に向かって上る坂道と、等高線に沿って通る道路により斜面地の道路骨格はつくられます。